

2012年7月31日

遊佐町長 時田 博機 殿

L A S - E 判定委員会

委員長 寺西俊一

副委員長 山本 武

委員 柳 新雅也

委員 松本 裕明

委員 西脇 居則

LAS-E判定結果について

1. 申請自治体

山形県遊佐町

2. 申請類型区分

第1ステージ・第2ステップ

3. 合否判定結果

L A S - E 判定委員会において、上記類型区分において規格に準拠しているかどうかを討議した結果、貴自治体の取り組みを次のように判定しました。

合格

なお、所見につきましては、別紙で通知いたします。

所見

<全般的な事項>

遊佐町の環境に関する取り組みがL A S-Eの規格に準拠しているか、また監査チームによる監査が適切に行われているか検討した結果、遊佐町環境マネジメントシステムはL A S-E第1ステージ第2ステップの基準を満たしていると判定しました。

<データ管理・分析について>

電気使用量に関しては平成20年度を境に顕著な減少傾向が見られ、施設設備の更新による省エネ効果が表れていることが分かります。エネルギー消費量や廃棄物排出量について過去4～5年間のデータを示していることで、このように対策による効果が見えやすくなっています。また、公用車燃費についてはガソリン車とディーゼル車に分けて把握しており、車両の利用特性に応じた増減の分析に繋がるデータ管理手法が取られています。データの把握・管理を適切な方法で行なうことは、マネジメントシステムの基礎となるものです。こうしたデータ管理は、他の自治体でも参考になる優れた形式として高く評価したいと思います。

<目標設定について>

電気使用量が対前年比25.4%減と大幅に削減された一方で、年度当初に設定された目標では「前年度と比較して1%削減」という表現に留まっており、目標値と実績値の乖離が目立ちます。独自目標の設定がエコアクションプランにおける目標に準拠したものであることは理解できますが、すでに施設設備の更新や運用の改善によって庁舎におけるエネルギー消費構造が大きく変化していると考えられます。こうした状況において、過去の前提に基づく目標値をいつまでも適用することが妥当であるかどうか、改めて検討してください。遊佐町は「わがまちの政策自慢」においてキラリ大賞を受賞するなど、独自の政策手法が高く評価されています。L A S-Eの目標設定においても一歩進んだ考え方に立って、より意味のある目標値を設定することで、マネジメントシステムの質を向上されることを望みます。

<今後について>

24年度は取り組み対象を拡大して第3ステップを目指されることと思います。しかし、従来のエコオフィスの取り組みの単純な継続では、エネルギー消費量の削減もいずれは頭打ちになります。今後は、すべての職場において業務の中に環境配慮の視点を反映していくことが必要と考えます。そのためには、各職場の独自取り組みを充実させることが肝要です。すべての職員が、行政活動を通じて地域全体の環境改善に貢献できるような取り組みを展開されることを期待します。